

日本学術振興会日中韓フォーサイト事業
中間評価（平成29(2017)年度採択課題）書面評価結果

日本側拠点機関名 大阪大学（教授・菅沼 克昭）

研究交流課題名 有機－無機ナノハイブリッドプラットフォームを用いた腫瘍の精密イメージングと治療

評価結果（総合的評価）

- A 想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
- B 想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
- C ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
- D 成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。

所見

研究交流について、研究開始後2年という短い期間において、日本から交流相手国へ若手研究者が積極的に派遣され、技術交流が行われている。しかしながら、国際会議での発表は共同研究成果ではなく、それぞれの研究機関からの個別の研究発表と思われる。日本の本研究への参加者は、阪大含め33名と多くが参加しているが、まだ交流段階で実質の共同研究には至っていないのではと思われる、さらなる努力が望まれる。

また、今後の研究交流の進め方に関する記述が各年度で全く同じである点は改善の必要がある。年度ごとに深まり発展していくよう、交流プログラムにもっと工夫があつてしかるべきである。これまでの研究で明らかとなった課題についてはその解決策が提示されておらず今後の見通しが立たないこと、また中・韓からの受け入れがまだゼロであること、さらに国際共同研究の論文がゼロであるなど実績が乏しく、目標達成のためには一層の努力が必要である。